

4. 第3次朝霞市子ども読書活動推進計画の成果と課題について

第3次朝霞市子ども読書活動推進計画では、基本目標ごとに設定した評価指標を基に実施計画を策定し、関係課、関係機関で自己評価を行い、計画の達成に努めてきました。

1) 計画の目標

第3次計画の総合的な目標として、不読率の減少、読書が好きな児童・生徒の割合の増加を目指しました。しかしながら、下表①のとおり、不読率は増加傾向にあります。これは、現在の子どもたちが、物心がついた時から身近にスマホがあった世代であり、電子書籍の普及も目覚ましく、その読書活動のあり方に変化が生じているからではないかと考えられます。

①不読率 (*4)

(全国学校図書館協議会データより)

	令和2年度 (2020)	令和7年度 (2025)	目標値 令和7年度 (2025)
小学生	16.6%	18.5%	12.5%以下
中学生・高校生	34.4%	—	14.0.%以下
うち 中学生	(18.7%)	24.3%	—
高校生	(50.0%)	65.9%	37.5%以下

*4:不読率 1ヶ月に1冊も本を読まない児童・生徒の割合。

②読書が好きな人の割合

(朝霞市立図書館が実施したアンケートより)

	令和2年度 (2020)	令和7年度 (2025)	目標値 令和7年度 (2025)
小学生	70.9%	56.9%	75.0%
中学生	61.3%	39.5%	64.4%
高校生	53.9%	36.1%	56.6%

2) 基本目標

① 子どもの読書環境の整備・充実

(1) 家庭での子どもが読書を楽しむ環境づくり

【主な成果】

- 図書館では、生涯学習施設及び関係機関と連携し、子どもの読書活動の重要性への理解と、家庭での読書活動が広がるよう読書環境の整備・充実を図りました。また、赤ちゃんとその保護者にメッセージを伝えながら、絵本の読み聞かせ体験とファーストブック (*5) をプレゼントするブックスタート事業や、赤ちゃんとママ・パパのおはなしタイム (*6) 、プレママ・パパ読み聞かせ講座 (*7) 、うさみみタイム (*8) 等の事業を実施しました。

*5: ファーストブック

赤ちゃんのためのはじめての絵本。

*6: 赤ちゃんとママ・パパのおはなしタイム

ブックスタート後の親子を対象として、図書館利用促進のため、絵本の読み聞かせや図書館利用登録案内等を行う事業。

*7: プレママ・パパおはなしタイム

これからお子さんを迎える第一子妊娠中の方とそのパートナー、家族を対象に、おなかの中で過ごす赤ちゃんとのコミュニケーションや、誕生後の赤ちゃんとの触れ合いと成長に絵本やわらべうたが役立つことをお伝えする事業。

*8: うさみみタイム

毎週木曜日の午後、図書館員が絵本等の読み聞かせや手遊び等を実施し、読書に親しみきっかけづくりを目的とした事業。

【主な課題】

- 文部科学省の第四次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」（平成30年4月）では、乳幼児期から中学生までに読書習慣の形成を促すことが大切であると位置づけています。

朝霞市立図書館においても、出産前の「プレママ・パパ読み聞かせ講座」、出産後にブックスタート、そのステップアップとして「赤ちゃんとママ・パパのおはなしタイム」、幼児から小学生向けに「うさみみタイム」などの読み聞かせ等を実施し、読書活動の推進を図っていますが、「うさみみタイム」等については、思うように参加人數が伸びていない状況もあります。

(2) 幼稚園・保育園での子どもが読書を楽しむ環境づくり

【主な成果】

- 幼稚園では、年齢に合った多様な絵本等を自由に読める環境を整え、毎日の読み聞かせを実施しました。
- 保育園では、子どもが、毎日多様な絵本に触れるができる環境の整備とともに、読み聞かせや読書の大切さの啓発をし、子どもの読書習慣の形成を促進しました。

【主な課題】

- 幼稚園・保育園では、読書をどのように進めていくのかが重要です。引き続き、家庭での読書にもつながるよう、読書や本の情報提供と働きかけを継続していくことが必要です。

(3) 学校での子どもが読書を楽しむ環境づくり

【主な成果】

- 小学校では、読み聞かせを実施するとともに、中学校では生徒の委員会活動による読書啓発活動を実施しました。
- 高等学校では季節や行事に合わせた図書展示により、読書を楽しむ環境づくりに努めました。
- 小・中学校の学校図書館には、司書教諭や学校図書館サポートスタッフ（＊9）が配置され、教育活動の中で、朝の一斉読書やボランティア団体による読み聞かせ、学級文庫の設置、必読書の選定等、児童・生徒の読書習慣への取り組みがされています。

*9:学校図書館サポートスタッフ

学校図書館の運営を補助するため、市が雇用した会計年度任用職員。

【主な課題】

- 本の貸出、管理が円滑に行われるよう、引き続き司書教諭や学校図書館サポートスタッフの配置と、学校全体で組織的に読書活動の推進に取り組む必要があります。
- 学校図書館サポートスタッフの研修を行い、学校図書館の運営について認識を深めるとともに、各校の情報交換をして行く必要があります。

(4) 図書館での子どもが読書を楽しむ環境づくり

【主な成果】

- 児童書や児童書研究の資料等の充実に努めるとともに、季節や行事に合わせた多様なテーマでの図書展示やおはなし会、書庫見学ツアーなどの事業の実施をとおして、読書を楽しむ環境づくりに努めました。

【主な課題】

- 近年、平日に児童の姿を見かけることが少ない印象があり、子どもの生活行動様式が変化しているものと考えられます。「男女共同参画白書」令和6年版によれば、未就学児の育児をする者に占める有業者の割合は、平成29(2017)年では、育児をする者 1,112 万人に対し有業者は 79.2% で、そのうち女性有業者は40 4万人で 36.3%、令和4年(2022)年では 965 万人に対して全体が 85.2%、うち女性有業者は383万人の 39.7%と上昇しています。大人の生活行動の変化に伴い、学齢前の育児は保育園に、小学校入学後には放課後児童クラブ等の活用、塾や習い事などに通うなど、平日、図書館に来る選択が少なくなっていると推測されます。イベント等の PR 方法や開催日時、開催方法について、学校や他機関とも協力しながら調査・検討する必要があります。
- 展示や講座、イベントの企画、実施などの際に、子ども、特に YA 世代の視点を取り入れる必要があります。

(5) 児童館、(6) 放課後児童クラブ、

(7) 子育て支援センターでの子どもが読書を楽しむ環境づくり

【主な成果】

- 児童館、放課後児童クラブでは、年齢層や季節に合わせた読み聞かせを行いました。
- 子育て支援センターでは、月2回の読み聞かせを行い、読書を楽しむ環境づくりに努めました。
- 児童館では、近隣小学校へ訪問、小学生対象の読み聞かせや、小中学生ボランティアによる読み聞かせ事業も実施しました。
- 放課後児童クラブでは、本の紹介のほか、ペープサポートや劇を実施し、本や物語への関心を促す活動をしました。

【主な課題】

- 各施設で、読書を楽しむ様々な環境づくりに取り組んでいます。今後も、読書に親しむ機会を提供するとともに、情報交換と情報の共有を進めて行く必要があります。
- 就園前児童と保護者の仲間づくりや子育てサポートの場である子育て支援センターでは、今後も、図書館や児童館、ボランティア等と連携しながら、読書に親しむ場の提供と保護者への啓発が求められます。

(8) 障害等で支援が必要な子どもが読書を楽しむ環境づくり

【主な成果】

- 様々な理由で読書活動に支援が必要な子どもを含むすべての子どもが読書に親しむことができるよう、点字絵本、デイジー図書(*10)、布絵本、LLブック(*11)、外国語の絵本の収集提供をしたほか、電子図書を導入し、読書バリアフリー法を踏まえた読書環境の整備・充実を図りました。
- 障害児通所系サービス施設みづばすみれ学園では、読みやすい図書の設置、情報提供、読み聞かせ実施や、絵本を題材にした遊びなどをとおして、読書を楽しむ環境づくりに努めました。また、園外保育として、図書館で本を借りる体験を実施し、日常生活の中で、親子で図書館利用をするための経験もしました。療育場面では、毎日の活動の前後で絵本の読み聞かせを実施し、リズミカルなオノマトペを用いて発語や発声を引き出す活動やストーリー性のある絵本を基に、劇ごっこなどを行いました。

【主な課題】

- すべての子どもたちの読書の機会を確保する必要があります。引き続き、点字資料やデイジー図書、布絵本、LLブック、電子図書館等の整備・提供を進めるとともに、多言語・やさしい日本語による利用案内の作成等も必要です。
- 読書バリアフリー法に基づき、図書館や学校の司書、司書教諭、職員、教職員等の連携を図り、読み字に困難がある児童生徒に読書の機会を設けることの重要性を認識し、充実に努めことが求められます。
- 引き続き、障害者サービスに関する内容を理解し、支援方法を習得するための研修

や読書支援機器の使用方法に習熟するための研修等に参加し、資質の向上を図る必要があります。

*10:デイジー図書

「Digital Accessible Information System」の略で、視覚障害のある方や印刷物を読むことが困難な方のための国際標準規格のデジタル録音図書。

*11:LL ブック

スウェーデン語の「LättLäst(やさしく読める)」に由来し、誰もが読書を楽しめるように工夫してつくられた、「やさしく読みやすい本」のこと。母語が日本語と異なる方や、知的障害や自閉症などの障害を持っている方をはじめとした活字を読んだり、理解することが難しい方にとっても読みやすいように作られています。

(9)電子書籍利用に伴う調査・研究

【主な成果】

- 令和3年度から電子書籍を導入しました。導入に当たっては、コンテンツの選定や利用等について、他の自治体の状況を調査・研究しながら進めました。
- コンテンツの購入に当たっては、読書バリアフリー法施行を踏まえ、視覚障害者等が利用しやすい音声読み上げ機能付きのものを導入しました。

【主な課題】

- 情報化が一段と進展した近年においては、情報の速さが重視される一方、その取捨選択や、考察する力が求められていることから、読書をする力がより重要になっています。なぜ読書推進をするのか、大人や関連施設、学校も含めて、読書の意義の共有と理解を進める必要があります。
- 電子図書も読書のスタイルの1つとして、電子図書館の周知と利用拡大を図る必要があります。

(10)安心・安全に利用できる図書館利用環境の提供

【主な成果】

- 安心して読書や事業を楽しめる空間づくりに努めました。
- 令和3年に実施した図書館本館の改修工事では、授乳室やおむつ交換台、多目的トイレ、トイレにベビーチェアの設置などを行いました。
- 従来想定していなかった感染症等への対応として、書籍の除菌機を設置しました。

【主な課題】

- 安心して読書や事業を楽しめる空間づくりには、ハード面だけではなく、図書館員と子どもが、より近い関係にあることが望ましく、フロアワーク(*12)を積極的に行うことも必要です。

*12:フロアワーク

カウンターの外のサービスフロアで行われる利用案内、読書案内、レファレンスサービス、読み聞かせ、ブックトーク、その他の利用者サービスの総称。

② 家庭・学校・地域のネットワークの充実・強化

(1)朝霞市子ども読書活動推進連絡会(*13)による連携

【主な成果】

- 「第3次朝霞市子ども読書推進計画」の策定や、連絡会の定期開催をとおして子どもの読書活動の推進体制の強化を図るほか、各団体・機関における本計画の進捗状況の確認や取組内容の見直しについて情報交換を行いました。

【主な課題】

- 各団体・機関との情報交換の継続のほか、より一層、協力体制を強化していく必要があります。

*13:朝霞市子ども読書活動推進連絡会

子どもの読書活動を総合的かつ計画的に推進するため、幼稚園・保育園・学校をはじめ子どもの読書に関わる団体・機関が相互に協力・連携して推進する体制として、平成28年5月に設置。

(2)ネットワークを活用した読書活動の推進

【主な成果】

- 朝霞市子ども読書活動推進連絡会を中心に、図書館と学校図書館の連携・協力、市関係部局、ボランティア団体等の関係者がそれぞれの役割を担いながら、相互の連携・協力により活動を推進しました。
- 家庭への支援として、家庭での読書が広がるように、読み聞かせやおはなし会等の講座を開催したほか、これらの講座への職員・ボランティアの派遣を行いました。また、それぞれの機関においても、環境の整備、読み聞かせや、図書館利用体験等多様な活動を通じて支援を進めました。
- 幼稚園・保育園・学校・児童館・放課後児童クラブ等への支援としては、読み聞かせに使用する本や、活動に役立つ資料等を団体貸出などで提供し、各機関の取組を支援したほか、図書館見学や利用体験、中学生等の職業体験学習等にも対応し、図書館を知り、身近に感じてもらえるように学習活動に協力しました
- 学校との連携を進め、令和5年度には「小中学校図書館貸出し」制度を策定し、学校図書館を通じて、希望する児童・生徒に学校にない本を提供することができました。
- 地域への支援としては、子どもの読書活動に関わる団体に必要な資機材の貸出、相談、各種情報提供に努めました。
- 高校図書館ネットワーク(*14)への支援として、ネットワーク活動が活発になるよう、情報交換などを行いました。
- 埼玉県内の高校図書館では、ネットワーク活動を行っています。市内の朝霞高校、朝霞西高校は、西部E(朝霞)地区ネットワークに参加し、各校の司書によってネットワーク業務を分担し、学校図書館間での相互貸借、書籍データの共有、授業利用で使用した書籍・雑誌のリスト作成や研修・会議、公立図書館(県立図書館や各市立図書館)から借受を行っているほか、地区高校独自の資料横断検索を構築、活用しています。

【主な課題】

- 令和7年度には、休止していた市内の県立高等学校図書館2校との情報交換会議を再開しましたが、今後は、定期的に開催する必要があります。特に不読率の高い高校生世代の読書活動推進を図るため、情報交換や展示等事業の企画・開催協力をしていく必要があります。

*14:高校図書館ネットワーク

埼玉県内の高校では、県内を17地区に分け、学校図書館ネットワーク活動を行っています。朝霞市・志木市・新座市・和光市は西部E(朝霞)地区ネットワークで、朝霞高校、朝霞西高校、志木高校、新座高校、新座総合技術高校、新座柳瀬高校、和光高校、和光国際高校の8校で構成しています。

(3)子どもの読書習慣形成に向けた新たな仕組みづくりの調査・研究

【主な成果】

- 子どもの読書習慣の形成に向けて横断的・継続的な取組に対応できるよう情報の収集に努めました。

【主な課題】

- 地域と連携した読書活動を進めるため、読み聞かせボランティア等の育成を支援するとともに、学校や地域等へ派遣して活動の場を広げる必要があります。また、ボランティア間の交流や関係機関の取組等がわかるように、引き続き情報提供に努める必要があります。
- 学校図書館、幼稚園・保育園・学校・児童館・放課後児童クラブ等への読書活動に関する相談、研修、事業などの支援が必要です。
- 子どもの読書習慣の形成に向けて横断的・継続的に取組んでいけるよう、引き続き、情報収集が必要です。

③ 子ども読書活動の普及・啓発

(1)子どもの読書活動に関わる情報の収集と提供

【主な成果】

- 子どもの読書活動に関する情報を関係機関で収集し、子どもと家庭への情報提供に努めました。
- 連絡会の定期開催をとおして、子どもの読書活動情報を取りまとめ、関係機関と情報交換・情報共有を図りました。
- 子どもの読書活動に関する情報の提供について、各機関、各施設で、子どもの成長段階に応じた情報、タイムリーな情報等読書活動に関する多様な情報をチラシやおたより、ホームページ、イベント等を通じて、子どもと家庭に届くよう努めました。

【主な課題】

- 関係機関で子どもの読書活動に関する情報を収集し、連絡会の定期的な開催を通じて共有する必要があります。
- 関係機関、団体において、子どもの読書活動の重要性の理解を深め、関連機関や地域、子どもと家庭に伝えていく必要があります。

(2) 子ども読書の日等での啓発

【主な成果】

- 各機関、各施設が連携して、「子ども読書の日」等について周知を行いました
- 図書館では、ポスターや広報等を通じて「子ども読書の日」を印象づけるとともに、読書のきっかけづくりとして、児童文学を原作とした映画上映やおはなし会を実施しました。

【主な課題】

- 「子ども読書の日」の認知度を高め、子どもが本を読むことへの関心と理解を深め、読書意欲を高める必要があります。

(3) 年齢ごとのブックリスト等の作成、優良図書の紹介

【主な成果】

- 図書館では、夏休み前に子どもたちの成長段階に応じたブックリストを作成し、図書館、公民館図書室、小学校、児童館、放課後児童クラブで配布するとともに図書館でリストの本の展示も行いました。
- 高等学校では、図書館報やブックリスト等の作成・配布をおこして、読書活動の推進を図りました。
- 図書館・公民館図書室、学校等で優良図書の展示・紹介に努めました。

【主な課題】

- 引き続き、時々に多様なテーマで、子どもの年齢に合わせた本の紹介を行うことが必要です。
- ブックリストが、いつでも閲覧できるよう、図書館ホームページ等での公開をするとともに、折に触れてリストの紹介をしていく必要があります。

5. 第4次朝霞市子ども読書活動推進計画策定に伴うアンケート集計結果

1) 各アンケートの集計結果

① 就学前児童の保護者

一週間に1回以上、子どもに本の読み聞かせをしたり、一緒に読書をする割合は、76.6%と高い状況にありますが、前回調査からは減少し、「あまり読んでいない」が増加しています。

一方で、子どもが読書に親しむようになるために必要なことについては、「家庭での読書習慣」を上げた人が79.9%となっていることから、全体として、読書や読書習慣の必要性を感じている保護者の方は多いものの、実際には、家庭での読書をしている層としている層との差が開く結果となりました。

選択肢	回答:人	割合:%	R3割合:%
1 ほぼ毎日読んでいる	63	29.4	39.7
2 一週間に3回以上読んでいる	43	20.1	20.1
3 一週間に1回から2回読んでいる	58	27.1	24.2
4 あまり読んでいない	50	23.4	16.0

子どもの読む本は、「家にある本を利用する」が80.5%で最も多く、次いで「購入する」が47.2%、図書館・公民館図書室は31.3%でした(複数回答)。自由記載欄には、子どもの声や本を汚してしまうことへの心配なども見られました。

また、図書館で開催している読み聞かせやおはなし会に参加したことがあるのは、19.9%で、前回17.2%より増加しましたが、参加したことのない理由の53.4%は、「開催されていることを知らなかった」となりました。

自由記載欄からは、たくさんの本に触れられる環境に期待する声が多く、おはなし会や読書相談に期待をする意見も見られました。

② 小学生

「本が好き」と回答した児童は56.9%で、前回の70.9%から大きく減少し、「好きでも嫌いでもない」が、前回より11.8ポイント増の31.0%という結果でした。「嫌い」の理由は、前回調査で1番だった「テレビ、パソコン、スマートフォンの方がおもしろい」が3.5ポイント減の38.1%で2番目になり、「読むのがたいへん」が38.3%で1番でした。このことから、読書に対して苦手意識があるのではないかと推測されます。

一方で、「好きでも嫌いでもない」と答えた児童では、「インターネットを使うことが多く、本を使うことがあまりない」が67.3%と前回調査よりも伸びていることから、読書環境が大きく変わっていることが分かります。

本を読んでもらった経験については、「よくあった」「ときどきあった」が87.8%で、前回調査と大きな変化はありませんでした。

本を読むのは、「家にある本」が71.3%と多く、購入するが微増、図書館や放課後児童クラブや児童館で借りる割合も増加傾向にあります。学校図書館がやや減少する結果となりました。放課後児童クラブや児童館での読書環境の整

備が進んできていると考えられます。

スマートフォンやタブレットによる読書については、「使わない」が 70.8%で、その理由は、「紙の本の方が読みやすい」が 50.4%で最も多かった一方、「スマートフォンやタブレットで本を読んだことがない」が 30.3%となっていました。

読書通帳(*15)については、利用している割合が約 11.4%で、読書通帳があることを知らない割合は 66.2%で、前回調査よりやや減少したものの依然高い状況です。

「本に親しむために必要なこと」については、「学校の「読書の時間」を多くする」が 38.6%で最も多く、「図書館等が読みたい本を用意する」「本を紹介」は、ほぼ同じ割合でした。

また、本の紹介をして欲しいのは、「家族や友だち」が 63.6%で最も多く、次いで「図書館の人」が 36.4%でした。

*15:読書通帳

銀行の預金通帳のように、読んだ本のタイトルや著者名などを記録できる冊子。

読書履歴を可視化することで、読書意欲の向上を促す。

③ 中学生、高校生

「読書が好き」は、中学生 39.6%、高校生 36.1%で、中・高ともに前回調査が約6割だったことから、大幅に減少しています。一方、「好きでも嫌いでもない」が増加しています。

「嫌い」な理由は、約4割が「楽しいと思わない」と答え、中学生では同率で「読むのがめんどう」をあげています。一方、「好きでも嫌いでもない」理由は、「主にインターネットを使っていて、本を使うことがあまりない」が中学生で約 57.0%、高校生で 48.3%となっており、インターネットが日常的に利用できる環境にあることが確認できます。

読む本の入手方法は、「家にある本」が伸び、「買う、買ってもらう」は減少しています。

読んだ本の数について「0 冊」と回答した高校生は、前回の 50.0%に対し、今回は 65.9%と、年々増加しています。

電子図書など読書にスマートフォンやタブレットを利用しているのは、中学生 38.8%、高校生 39.4%となっています。利用していない理由は、中学生では「紙の本の方が読みやすい」が 50.8%、高校生では「電子図書に興味や関心がない」が 46.4%でした。

本に親しむようにするには、「図書館が読みたくなるような本をたくさん用意すればよい」を上げたのが、中学生 45.9%、高校生 35.7%で、高校生では、ほぼ同率の 36.1%が「学校の「読書の時間」を多くすればよい」を上げています。

また、本を紹介して欲しいのは、「家族や友人」を上げたのが、中学生で 61.6%、高校生で 67.6%でした。

「読書のこと、図書館や公民館図書室、学校図書館に希望することや意見など」自由記載欄では、漫画や自分の希望するジャンルの本の配置を希望する意見のほか、読書環境や自習スペースに関する意見も見られます。

④ 朝霞市こどもモニター(*16)アンケート

「本が好き」と答えたのは、74.1%と高い結果となりました。

本を読んでもらった経験については、「よくあった」85.2%、「ときどきあつた」が14.8%でした。

読む本の入手方法は、「家にある本」が最も多く、「買う、買ってもらう」「学校図書館で借りる」が同率の結果となりました。

読書にスマートフォンやタブレットを利用しているのは40.7%で、利用している理由としては、書店や図書館に行かずに本が手に入る利便性を上げたのが63.6%でした。

本に親しむようにするには、「読みたくなる本をたくさんする」「本の紹介」を上げ、本の紹介をして欲しいのは「家族や友だち」が77.8%となっています。

「読書のこと、図書館や公民館図書室、学校図書館に希望することや意見など」自由記載欄では、自分の希望する本の設置意見が多いが、専門書などの希望も見られました。また、イベントの開催について、部活動の無い日曜日の提案などがありました。

*16:朝霞市こどもモニター

子どもの市政への関心を高めるとともに、子どもの年齢や発達の段階に応じた意見を広く市政に反映させることを目的として設置している朝霞市の制度。

朝霞市に在住、在学または在勤中の小学4年生から満18歳の方が登録している。

2)埼玉県学力・学習状況調査結果について

1ヶ月に1冊も本を読まない児童生徒の割合は、小学生は18.5%、中学生は24.3%となりました。いずれも前回調査より上昇しています。読書習慣の形成を促す上で、不読率を減らすことが重要な課題です。

3)アンケート調査結果から把握できる課題

① 就学前児童の保護者では、子どもの読書の必要性を認識していて、読み聞かせなど子どもとの読書活動をしています。しかしながら、読書習慣のない保護者も一定割合確認できることから、なぜ読書が有意義なのか、大人の理解を進めることが重要です。

② 読書が好きな子どもの割合は、小学生で過半数となったものの、中高生では、4割を切る状況です。読書が嫌いな理由としては、読むのがたいへん（めんどう）を上げる子どもが各学年とも多く、読書に対する苦手意識を持っているのではないかと推測されます。

また、「読書が好きでも嫌いでもない」子どもの割合も増加し、さらに、年齢が上がるにつれて増えており、このことは、読書に興味がない層が増加しているのではないかと考えられます。

- ③ 物心ついた時からインターネットやスマートフォンが当たり前の環境にあったデジタルネイティブ世代を中心となる中、オーディオブック、デジタル図書等、多様化する読書への対応と充実の必要があります。一方で、電子図書を利用してない、読書にデジタル機器を使用していない層の割合も多いことから、電子図書館、電子機器を活用しての読書やデジタル・リテラシー（＊17）を育む支援も必要になると考えられます。
- ④ 本の紹介をしてくれる人として上がったのは、家族や友人がほとんどでした。このことから、子どもや子どもの身近な大人への本の紹介、読書活動を促すイベント等での働きかけのほか、子ども同士が本を紹介する活動への支援などが望まれます。
- ⑤ 読書や図書館に対する自由記入欄には、本の紹介、蔵書の充実を望む意見が多く見られ、本のナビゲーターとしての図書館への期待にどのように答えるかが課題の一つと考えることができます。

*17:デジタル・リテラシー

デジタル技術やツールを適切に理解し、効果的に活用するための知識やスキル。